

皆さんがいつも見ている「石鎚山」は？

～ 市内でも場所によって表情を変える地域のシンボル～



▲ 加茂川河口、禎瑞の龍神社付近。風のない日には「石鎚山」が乙女川の水面に映えます。

平成16年11月1日、二市二町が合併して誕生した新西条市。その翌月に「広報さいじょう」第1号が創刊されました。それから8年余り、ついに今号をもって通巻100号を迎えることができました。

この間、市政に関する情報を正確にお伝えするよう、常に平易な言葉を用いた表現を心がけるとともに、写真やイラスト・図表をできる限り使うなどして、分かりやすく見やすい紙面づくりに努めてまいりました。

これからも、なおいっそう皆さんに親しまれる広報紙となるよう、厳選した情報をお伝えしていきたいと考えておりますので、引き続きよろしくお願いたします。

ところで、広報担当者は紙面で使用する写真を撮影するために、平素からカメラを抱えて市内を走り回っています。そうした中で気付いたのは、合併で市域が拡大したことから、市内の各地で「石鎚山」の見え方が大きく異なるという事実です。当然と言えばそれまでですが、幼いころから慣れ親しんできた風景ゆえに「石鎚山」と言えばこれ！というイメージが出来上がっており、その事実担当一同少なからず驚いたのです。皆さんはいかがでしょう？

そこで今号では『「広報さいじょう」通巻100号記念 特別企画』として、「石鎚山」のさまざまな表情をご紹介しますと思います。西日本最高峰であり地域の力強いシンボルである「石鎚山」。いつも見守ってくれているという圧倒的な存在感は、西条市に暮らす私たちにとって特別な存在です。姿かたちは違えどたった一つの「石鎚山」。そして、その懐に抱かれた西条市は、県下3番目の面積を有するほど広大なまちとなりましたが、間違いなくたった一つの私たちの故郷で、来年には合併10年という節目を迎えることになるのです。

場所によって表情を変える「石鎚山」を通じて、西条市についてもう一度考えていただければ幸いです。